



札幌市立大学・斉藤先生

高断熱・高気密住宅の造り手育成

—まず札幌版次世代住宅基準が策定された背景と狙いについて聞かせて下さい。

斉藤 2年ほど前にパッシブハウス相当の住宅が市内の厚別区に建ち、本州でもパッシブハウス普

札幌版次世代住宅基準は断熱・気密性能に特化し、その内容は現時点で国内における最高水準と言えらる。この基準が目指すものは何なのか、普及へのビジョンは。平成22年度に開かれた技術検討会議の委員を務めた札幌市立大学デザイン学部准教授の斉藤雅也氏(工博)に話をうかがった。

認定申請に必要な設計図書

- ① 設計内容等説明書(第5号様式)
- ② 付近見取り図
- ③ 仕様書(仕上げ表含む)
- ④ 配置図
- ⑤ 各階平面図
- ⑥ 立面図(4面)
- ⑦ 断面図または矩計図
- ⑧ 基礎伏図
- ⑨ 各部詳細図
- ⑩ 換気設備の仕様がわかる書類
- ⑪ 熱損失係数(Q値)計算書
- ⑫ 住宅の暖房エネルギー消費量計算書
- ⑬ その他市長が必要と認めた図書

助申請も本申請を行うことになるが、本申請の期間や提出書類等はまだ公表されていない。

なお、設計確認書交付後に断熱性能にかかわる設計変更があった場合、変更申請書を必要書類とともに市に提出する。

性能評価の設計確認書と補助本申請の決定通知書の交付を受ければ、着工することが可能。いずれか交付されていない状態での事前着工は認められない。

度があり、道内の住宅の性能水準向上や造り手育成にかなり貢献しています。札幌では事業者の数が多く、登録者率が低いのです。そこで札幌が今こそ、この基準を通じて断熱・気密性能に優れた住宅の造り手育成に取り組みなければならぬと考えています。

基準の狙いと今後の展望

札幌市立大・斉藤先生に聞く

及へ向けた動きが出てきた中、札幌市でも温暖化対策でCO₂排出量25%削減を達成するために、住宅の暖房・給湯エネルギーを削減する動きが出てきています。これら

普及へ市民の意識を変えることも必要

—基準を市民に普及させていくために、どのようなことが必要でしょうか。

斉藤 目標達成へどういう手順が必要か、そのプロセスの設計・デザインを行わないといけません。

が、まずは市民の意識を変えることが必要です。例えば仮設型の高断熱モデルハウスなどを区役所やイベント会場などの人が集まる場所に設置し、体感キャンペーンを行うなどして、断熱の本質的な価値を市民に認識してもらおうと必要だと考えます。

斉藤 新築については5つの性能等級に分けていきます。トップランナーは技術的に建設可能なもので、住宅会社として挑戦する姿勢はあつていいと思います。

技術ある住宅会社は基準の活用を

—札幌版次世代住宅基準に取り組み住宅会社

もう一つ、道の北方型住宅・BIS制度との「相互乗り入れ」も上手くできればいいのでは。成熟した制度であるBISのテキストなどの知財を共有し、新しいテキストや講習会ができればいいと思います。

—性能等級の意味と狙いは。

斉藤 すでにベーシックレベルのQ値1.3W/m²・Kを達成できる住宅会社は、技術的にもかなり高いレベルにあると考えられます。この基準をうまく活用してもらえればと思います。

一方、これからベーシックレベル以上に取り組みもうと考えている住宅会社は、BISなどの制度や各住宅団体・工務店グループなどのネットワークをうまく活用することで技術力を高め、より性能等級が上の住宅を建てられるよう頑張ってくださいね。

完成後に報告書提出

補助金請求は認定受けた後に

着工後は気密工事を完了後に気密測定を行い、建物物が完成したら工事完了報告書を添付図書と一緒に

来年度2月末までに提出する。

報告書は市が用意している様式を使用。添付図



設計内容等説明書の様式

書は気密性能試験報告書と工事記録書、検査済証の写しの3点で、気密性能試験報告書はIBEC認定の測定技能者の登録カードの写しを添付、工事記録書は各部位の断熱施工状況がわかる写真と、断熱材・玄関ドア・窓の出荷証明書など仕様部材が判別できる書類を添付する。

市では工事完了報告書によって性能評価を行い、基準への適合が認められれば設計評価書と性能表示プレートを交付。建築主は補助金の請求を行うこととなる。

なお、市では札幌市東区の分譲地「ウエルピアひかりの」で認定住宅のモデルハウス建設を計画している。

平成24年度にモデルハウスを建設する住宅会社の公募と建設地の造成を行い、25・26年度にそれぞれモデルハウスを8戸ずつ建設する予定。

モデルハウスを建設する住宅会社に対しては建設費の2分の1を補助することが検討されているほか、性能検証の実施も考えられているようだ。

社にメッセージをお願いします。

斉藤 すでにベーシックレベルのQ値1.3W/m²・Kを達成できる住宅会社は、技術的にもかなり高いレベルにあると考えられます。この基準をうまく活用してもらえればと思います。

一方、これからベーシックレベル以上に取り組みもうと考えている住宅会社は、BISなどの制度や各住宅団体・工務店グループなどのネットワークをうまく活用することで技術力を高め、より性能等級が上の住宅を建てられるよう頑張ってくださいね。

外断熱 新外装材 だんぺき **DAN壁**

快適と美しさを同時に実現!

湿式仕上げ用下地処理済みの高品質な透湿外断熱ボード

Q値1.0Wをクリアする

付加断熱に最適な選択

- EPSボード
- ベースコート
- グラスファイバーメッシュ
- トップコート

札幌版次世代住宅基準で標準性能等級となるスタンダードレベル(Q値1.0W以下)をクリアするためには外壁の付加断熱が必須。『DAN壁』は軸組にビス・ワッシャー留めするだけで、簡単に付加断熱を実現可能。すべての材料に透湿性があるため通気層も不要です。

耐久性が高いオンリーワンの美しい外観デザインを演出

窯業系サイディングや金属製外装材のデザインに飽き足らないお施主様に対し、豊富なカラーとコテなどを使った多彩な意匠を提案可能。仕上げ材のトップコートは塗膜に柔軟性を持たせており、長期にわたり優れた耐クラック性・耐衝撃性を発揮します。

国土交通大臣防火構造認定取得 (30分。断熱厚70~120mm、外断熱・付加断熱対応)

株式会社 **タネツ**

〒070-8045 旭川市忠和5条4丁目9-17
TEL(0166)61-9151・FAX(0166)61-2044
http://www.dan-netsu.co.jp/

省エネと健康を追求する

外気と汚れた室内の空気を接触させることなく、熱のみを回収。

一步先を行く顕熱式熱交換換気システム

LWZ Series

熱交換率 **90%**のエコ換気

最新News

4月から新価格に改定!
ドイツ生まれの高性能換気がより身近になります!

技術が生んだ快適さ

Made in Germany

STIEBEL ELTRON 日本スティーベル株式会社

http://www.nihonstiebel.co.jp/

北海道駐在所 札幌市白石区中央二条5丁目12-22
Tel 011-846-4649 Tel 0120-146-487